

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-104449

(43)Date of publication of application : 09.04.2003

(51)Int.Cl.

B65D 77/30

B65D 65/28

B65D 85/67

(21)Application number : 2001-294063 (71)Applicant : OJI PAPER CO LTD

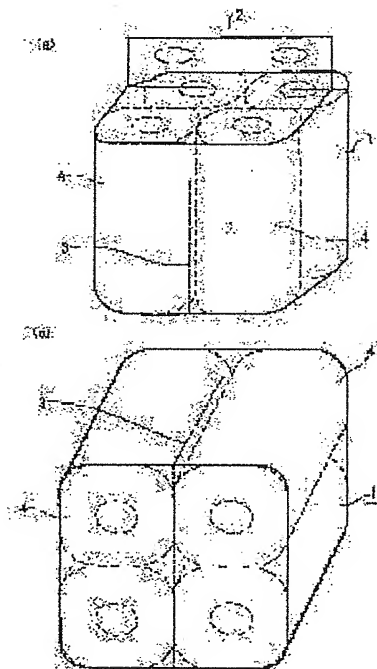
(22)Date of filing : 26.09.2001 (72)Inventor : NAKADA KYOKO
MIZUNO KAZUTO
TSUCHIDA YUZO
TANAKA HISASHI

(54) KITCHEN PAPER PACKAGING BODY

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a unit packaging body of kitchen paper rolls which can be easily unsealed when taking out the packaged kitchen paper rolls from a packaging body, re-package the remaining kitchen paper and store it clean after taking out the kitchen paper rolls of the required number.

SOLUTION: In the packaging body 1 in which a plurality of kitchen paper rolls are arranged in a row in a horizontal direction with circular end faces thereof on upper and lower sides, and the outer periphery of one roll or a plurality of the rows is packaged with a sheet-like material such as a packaging film, an unsealing perforation (a cutting line of the perforation) 3 is formed in the vertical direction in at least one side of front and back sides of the packaging body in a re-packaging manner. An unsealing method and a re-packaging method are printed on the packaging body.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-104449

(P2003-104449A)

(43) 公開日 平成15年4月9日 (2003.4.9)

| (51) Int.Cl. ⁷ | 識別記号 | F I | テマコード* (参考) |
|---------------------------|------|---------------|-------------|
| B 6 5 D 77/30 | | B 6 5 D 77/30 | C 3 E 0 3 7 |
| 65/28 | | 65/28 | 3 E 0 6 7 |
| 85/67 | | 85/67 | Z 3 E 0 8 6 |

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2001-294063 (P2001-294063)

(22) 出願日 平成13年9月26日 (2001.9.26)

(71) 出願人 000122298

王子製紙株式会社

東京都中央区銀座4丁目7番5号

(72) 発明者 中田 京子

東京都中央区銀座五丁目12番8号 王子製
紙株式会社内

(72) 発明者 水野 和人

愛知県春日井市王子町1番地 王子製紙株
式会社名古屋工内

(74) 代理人 100072224

弁理士 朝倉 正幸

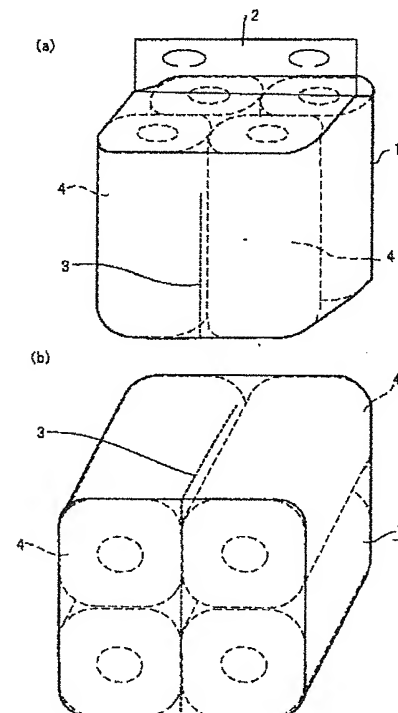
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 キッチンペーパーの包装体

(57) 【要約】

【目的】 包装されたロール状キッチンペーパーを包装体から取り出す際に、開封が容易であると共に、必要個数取り出した後、残りのキッチンペーパーを再包装して清潔に保管できるキッチンペーパーのユニット包装体を提供することである。

【解決手段】 ロール状キッチンペーパーの円形の端面を上下にした状態で水平方向に複数個並べて列を形成し、該列を一行又は水平方向に複数列配置したものの外周を包装フィルムなどのシート状物で被覆した包装体1において、該包装体の前面と後面の少なくとも一方の面に、開封用ミシン目線 (ミシン目の切込線) 3を再包装可能なように、上下方向に設ける。包装体に開封方法及び再包装する方法を印刷表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ロール状キッチンペーパーの円形の端面を上下にした状態で水平方向に複数個並べて列を形成し、該列を一行又は水平方向に複数列配置したものの外周を包装フィルムなどのシートで被覆した包装体において、

該包装体の上方の水平面を上面、下方の水平面を下面とし、これらの上下面に垂直な包装面のうち、何れか対向する一対の面を前面と後面として、

該包装体の前面と後面の少なくとも一方の面に、開封用ミシン目線が再包装可能なように上下方向に設けられていることを特徴とするキッチンペーパーの包装体。

【請求項 2】 ロール状キッチンペーパーの円形の端面を上下にした状態で水平方向に複数個並べて列を形成し、該列を一行又は水平方向に複数列配置したものの外周を包装フィルムなどのシートで被覆した包装体において、

該包装体の取っ手が設けられた上方の水平面を上面とし、下方の水平面を下面とし、これらの上下面に垂直な鉛直面のうち、取っ手に平行な鉛直面を前面と後面とし、残りの対向する面を左右の側面として、

該包装体の前面と後面の少なくとも一方の面に、開封用ミシン目線が再包装可能なように上下方向に設けられていることを特徴とするキッチンペーパーの包装体。

【請求項 3】 前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線は、前記包装体の前面と後面の少なくとも一方の面における幅方向中央領域に、上下方向に 1 本の直線状に設けられていることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載したキッチンペーパーの包装体。

【請求項 4】 前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線は、前記包装袋の前面と後面の少なくとも一方の面における幅方向中央領域に、上下方向に 2 本の直線状に設けられ、その 2 本の開封用ミシン目線間に引裂開封部が形成されることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載したキッチンペーパーの包装体。

【請求項 5】 前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線は、前面と後面の少なくとも一方の面のミシン目線に連続して、前記上面と下面の少なくとも一方の面にも設けられていることを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体。

【請求項 6】 前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線が配置されている領域は、その領域の長さ、前面及び後面においては各面の垂直方向の全長に対し 60 ~ 100 % であり、上面と下面にも連続して設けられた場合には、その領域の長さが前面と後面間の長さに対し 0 ~ 100 % であることを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 5 のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体。

一の包装体。

【請求項 7】 前記キッチンペーパーの包装体には、前記開封用ミシン目線の位置を示す印刷表示、前記開封用ミシン目線に沿って開封する方法を説明する説明図等の印刷表示のうちの少なくとも 1 つがなされていることを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 6 のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体。

【請求項 8】 前記キッチンペーパーの包装体には、前記開封用ミシン目線に沿って開封して一部のキッチンペーパーを取り出した後に再包装する方法を説明する説明図等の印刷表示がなされていることを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 7 のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、主に家庭の台所やレストランの厨房(以下キッチンという)において使用するロール状ペーパータオルを包装フィルムなどのシート状物で被覆した包装体に関する。

【0002】

【従来の技術】ふきん、タオルの代用品としてパルプ繊維を主原料として製造されるペーパータオルのうち、主にキッチンにおいて、肉、魚、野菜などの水切り、油切り、まな板の上敷、食器の拭き取り、フライパンの油拭き、ガスレンジ、換気扇の手入れ、食卓の汚れ拭き、などの用途に使用されるものは、特にキッチンペーパー(クッキングペーパーも含む)とも呼ばれ、家庭用紙の一種として広く知られている。このキッチンペーパーは、通常、ヤンキードライヤー抄紙機を用いて原紙を抄造し、必要に応じてエンボス加工等を施し、加工ワインダーにて原紙の小巻取りを作った後、この巻取りをカッターにより所定の長さに裁断してロール状ペーパータオル(以下小口ロールという)として生産される。又、不織布として製造する場合は、ヤンキードライヤー抄紙機の代わりに、不織布の製造装置が用いられる。この小口ロールを 1 個または所定個数まとめて集積し、その周囲をポリエチレンフィルムなどで包装して販売に適する形態にして出荷している。このように包装した製品のロール個数は、2 ~ 6 個が一般的であり、使用する包装フィルムとしては、厚さ 28 ~ 35 μ 程度の軟質のポリエチレンフィルムが多用され、2 ~ 3 個包装の場合はシート状の前記フィルムで直接包装し、それ以上の個数の場合は同フィルムにより製袋した袋の中に所定個数充填した後シールして出荷している。

【0003】このようなキッチンペーパーは上記の通り主にキッチン回りで使用され、清潔であることが製品特性として求められており、包装フィルムを開封して内容物の一部を取り出した後には、残りの製品を清潔に保管できるように再包装できることが要望されている。ところが、手で開封すると包装フィルムを綺麗に切断するこ

とが困難であると共に、どのように開封すれば再包装がやり易いのか考えながら開封する人も少ないので、前記の要望を満たすことは難しかった。

【0004】ところで、紙おむつや生理用ナプキンの包装袋にあっては、包装形態を小型化し、収納スペースを最小限にするため通常圧縮包装を行っているが、圧縮包装袋に使用する包装用フィルムには内容物の重量を支える強度の他に内容物の復元力に耐える強度が要求されるので、使用する包装用フィルムの厚さは70μ程度の厚いものが用いられている。そのため、包装袋の開封は容易ではなく、包装袋に開封用ミシン目線(開封用切込み線)を設けることが一般的である。これに対し、ロール状キッチンペーパーは柔軟性、ソフト感、嵩高さ等の品質上の理由や、圧縮によりコアが潰れてしまうとディスペンサーに掛けることができないという理由などもあって圧縮包装しないので、包装用フィルムには薄いものが使用され、かつ包装袋に開封用ミシン目線が設けられておらず、包装袋に開封用ミシン目線を入れたものは市場に出回っていない。更に、ロール状キッチンペーパーの包装袋にミシン目等の開封手段を設けることに関する特許・実用新案出願も、現時点では特に見当たらない。

【0005】また、前述した紙おむつ等の圧縮包装体に関する提案としては、本件出願人が先に行った下記のものがある。

①実開平6-30080号公報：圧縮トイレットペーパーの包装袋

《技術内容》ロール状トイレットペーパーの圧縮包装体であって、ロール軸に平行な任意の相対する二面で圧縮されて偏平楕円形とされたトイレットペーパーロールを、圧縮された面同士を所定個数重ね合わせたものを一列として、該列を縦方向及び/又は横方向に複数列並列に配置した状態でプラスチックフィルム製の包装袋内に圧縮包装し、その上面に取っ手を設けたもの。またプラスチックフィルム製の包装袋に水平方向の全周にわたりミシン目線を設けて、偏平楕円形とされたトイレットペーパーロールを1段毎に取り出し易くした技術。本願発明とは包装対象物が異なり、圧縮包装されている点異なる。この先願技術のミシン目線は開封することが主目的であり、ミシン目線の方向も異なる。

【0006】②実開平6-57873号公報、特開平10-152182号公報：使いすて衛生用品の包装袋

《技術内容》圧縮包装された使い捨て衛生用品(紙おむつや生理用ナプキン等)の使い捨ておむつの包装袋であり、開封用ミシン目線をプラスチックフィルム製の包装袋の上下方向に設けた技術。先行技術①と同様に、本願発明とは、包装対象物が異なり、圧縮包装されている点異なる。この先願技術のミシン目線は開封することが主目的である。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】上記のような従来技術

に対し、本発明が対象とするロール状キッチンペーパーは柔軟性や嵩高さ等の品質上の理由で圧縮包装しないので、包装袋に使用するフィルムが薄く、包装袋に開封用ミシン目線(ミシン目の切込線)が設けられていない。ところが、ロール状キッチンペーパーはキッチン回りで使用し清潔であることが製品特性として重要であり、一部内容物を取り出した後の残りの製品を清潔に保管できるような再包装機能が強く求められている。

【0008】本発明の目的は、包装されたロール状キッチンペーパーを包装体から取り出す際に、開封が容易であると共に、必要個数取り出した後、残りのキッチンペーパーを再包装して清潔に保管できる開封再包装手段を具備したキッチンペーパーのユニット包装体を提供することである。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明者等は上記課題を解決するために、次のような手段を採用することで本発明を完成したものである。すなわち本発明の第1は、ロール状キッチンペーパーの円形の端面を上下にした状態で水平方向に複数個並べて列を形成し、該列を一列又は水平方向に複数列配置したものの外周を包装フィルムなどのシート状物で被覆した包装体において、該包装体の上方の水平面を上面、下方の水平面を下面とし、これらの上下面に垂直な包装面のうち、何れが対向する一対の面を前面と後面として、該包装体の前面と後面の少なくとも一方の面に、開封用ミシン目線(ミシン目の切込線)が再包装可能なように、上下方向に設けられていることを特徴とするキッチンペーパーの包装体である。

【0010】また本発明の第2は、ロール状キッチンペーパーの円形の端面を上下にした状態で、水平方向に複数個並べて列を形成し、該列を一列又は水平方向に複数列配置したものの外周を、包装フィルムなどのシート状物で被覆した包装体において、該包装体の取っ手が設けられた上方の水平面を上面とし、下方の水平面を下面とし、これらの上下面に垂直な鉛直面のうち、取っ手に平行な鉛直面を前面と後面とし、残りの対向する面を左右の側面として、該包装体の前面と後面の少なくとも一方の面に、開封用ミシン目線(ミシン目の切込線)が再包装可能なように、上下方向に設けられていることを特徴とするキッチンペーパーの包装体である。

【0011】本発明の第3は、前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線は、前記包装体の前面と後面の少なくとも一方の面における幅方向中央領域に、上下方向に1本の直線状に設けられていることを特徴とする第1の発明または第2の発明に記載したキッチンペーパーの包装体に関するものである。

【0012】本発明の第4は、前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線は、前記包装袋の前面と後面の少なくとも一方の面における幅方向中央領域に、上下方向に2本の直線状に設けられ、その2本の

開封用ミシン目線間に引裂開封部が形成されることを特徴とする第1の発明または第2の発明に記載したキッチンペーパーの包装体に関するものである。

【0013】本発明の第5は、前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線は、前面と後面の少なくとも一方の面のミシン目線に連続して、前記上面と下面の少なくとも一方の面にも設けられていることを特徴とする第1から第4の発明のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体に関するものである。

【0014】本発明の第6は、前記キッチンペーパーの包装体における前記開封用ミシン目線が配置される領域は、その領域の長さ、前面及び後面においては各面の垂直方向の全長に対し60～100%であり、上面と下面にも連続して設けられた場合には、その領域の長さが前面と後面間の長さに対し0～100%であることを特徴とする第1から第5の発明のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体に関するものである。

【0015】本発明の第7は、前記キッチンペーパーの包装体には、前記開封用ミシン目線の位置を示す印刷表示、前記開封用ミシン目線に沿って開封する方法を説明する説明図等の印刷表示のうちの少なくとも1つがなされていることを特徴とする第1から第6の発明のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体に関するものである。

【0016】本発明の第8は、前記キッチンペーパーの包装体には、前記開封用ミシン目線に沿って開封して一部のキッチンペーパーを取り出した後に再包装する方法を説明する説明図等の印刷表示がなされていることを特徴とする第1から第7の発明のいずれかに記載したキッチンペーパーの包装体に関するものである。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を詳細に説明する。本発明の包装対象であるキッチンペーパーは、前述したように、主に家庭の台所やレストランの厨房において使用するロール状のペーパータオルであり、クッキングペーパーと称されているものも包含するものである。また、このキッチンペーパーを被覆する包装用フィルムなどのシートの素材として、通常はフィルム厚さが29～30μ程度のポリエチレン製プラスチックフィルムからなるものが用いられるが、これらに限定されるものではなく、ラミネート紙や紙単体からなるものも本発明では使用できるものである。

【0018】包装対象であるロール状キッチンペーパーは、同一の大きさのロールを少なくとも2個または3個を単位として、各ロールの円形の端面が上下の状態になるように水平方向に並べて一列とし、前記列を一列或いは複数配置して、全体がほぼ直方体形状をなすように、ユニット化したものの周囲を前記フィルムなどで被覆して包装し、図1又は図2に例示する包装体として販売されるものである。

【0019】この包装体は、上方の水平面を上面、下方の水平面を下面とし、これらの上下面に垂直な包装面のうち、何れが対向する一対の面を前面と後面として、該包装体の前面と後面の少なくとも一方の面に、開封用ミシン目線が、ロール状キッチンペーパー取出し後の再包装を容易にすべく、後述するように上下方向に設けられている。なお、包装個数が2～3個と少ない場合には、包装体の上下両面は、前記の内容物を収容後に、ヒートシール等の手段により密封されるが、包装個数が多い場合などには、必要に応じてその上面には後記のように取っ手が形成される。取っ手を形成する場合は、フィルムなどにより事前に製袋した袋の上部に取っ手を一体に形成し、取っ手に平行な包装体の鉛直面を前面または後面として、前面と後面の少なくとも一方の面に開封用ミシン目線を設ける。また、包装袋に取っ手を設けない場合は、包装体の鉛直面のうち、何れが対向する一対の面（前面と後面）に開封用ミシン目線を設けるが、包装体の鉛直面の内の広い側の面（例えば2個包装の場合はキッチンペーパーが2個並んでいる面）とすると、再包装し易く好ましい。

【0020】この開封用ミシン目線は、何れの場合も上下方向に直線状に設けるのが好ましいが、多少曲線状であっても構わない。また、この開封用ミシン目線の位置は、前記包装体の前面または後面に並んでいるロール状キッチンペーパーの個数が偶数の場合は、前面または後面の幅方向中央部または中央部寄りに設けることが好ましいが、その他の位置に設けてもよい。すなわち、3個（奇数）の場合には、端の2個のロール状キッチンペーパーの間に設けるのが好ましい。また、取っ手を設ける場合は、製造方法を考慮すれば、開封用ミシン目線は包装体の側面に存在しない方が好ましい。またこの開封用ミシン目線が設けられている領域は、その領域の長さが、包装体の前面または後面の各面の垂直方向の全長に対し60～100%の長さに形成させるのが好ましい。60%未満であるとキッチンペーパーの取り出しが難しく好ましくない。開封用ミシン目線は、前記包装体の前面または後面の少なくとも一方の面に、上下方向に少なくとも1本設ければよいが、必要に応じて上下方向に平行に2本設けてもよく、その2本の開封用ミシン目線間を引き裂き用開封部とすることができる。なお、包装袋の前面または後面に設ける開封用ミシン目線の切り込み方向は上下方向であれば、鉛直方向に限る必要はなく若干横に傾いてもよい。さらに、各ミシン目の形状は直線的ではなく少し曲線状にしてもよく、さらにミシン目線の上下の終端部のみをL型に屈曲させて開封起点としてもよい。

【0021】前述したように、包装体の上下両面は、内容物を包装後加熱溶着等の手段でシールして封をするが、このシールされた前記上面と下面の少なくとも一方の面に、包装体の前面と後面の少なくとも一方の面に設

けられた開封用ミシン目線に連続して、直線状に設けることが好ましく、このようにすることにより、キッチンペーパーが取出し易くなる。このように開封用ミシン目線が上面と下面にも連続して設けられた場合には、その長さが前記包装体の前面と後面間の長さに対し 0 ~ 1 0 0 % の長さに設定するのが好ましい。この長さは、取出し易さと再包装の両方を考慮して、決めることになる。

【 0 0 2 2 】

【実施例】次に図面に基づいて本発明をさらに詳しく説明するが、勿論本発明はこれらの実施例により制限されるものではない。

<実施例 1> 図 3 は 4 本のロール状キッチンペーパーを包装する場合に使用するガゼット袋の斜視図であり、図 4 はその袋を切り開いて示す展開した平面図であり、図 5 は同上ガゼット袋に 4 本のロール状キッチンタオルを充填包装する状況を示した説明図、図 2 は包装状態を示す斜視図である。このガゼット袋は、インフレーション法により製造した厚さ 3 0 μ のチューブ状ポリエチレンフィルムを切り開いて原反として、その片面所定の位置に後記のようにグラビヤ印刷等によって商品名や商品の種類等の銘柄のほか、製造者、販売社名等の必要な項目を印刷すると同時に、開封用ミシン目線の位置を示す印刷表示、前記開封用ミシン目線に沿って開封し、再包装する方法を説明する説明図等を施したものを製袋して使用する。印刷部 P を網掛け模様で示した。この袋はガゼット加工を施し、取っ手と、取っ手穴を加工し、袋の前面と後面に相当する部分（上下方向の長さ 2 3 0 mm）と、下面に相当する部分（長さ 1 1 0 mm）に全長 3 0 0 mm に渡って 1 本の直線状ミシン目線 3 を直線刃を用いて切込み加工し、ロール状に巻き取る。直線状ミシン目線 3 の配置位置は、袋の前面と後面に相当する部分については、上方 4 0 mm には設けなくて下方部分 1 9 0 mm に直線状に設け、下面に相当する部分には全長に渡って 1 1 0 mm の長さで設けている。この場合、袋の前面と後面においてはミシン目線が配置されている領域の比率が $1 1 0 \times 1 9 0 / 2 3 0 = 8 3 \%$ であり、下面においては $1 0 0 \times 1 1 0 / 1 1 0 = 1 0 0 \%$ である。但し、これらの長さとは比率は一例であり、勿論限定されるものではない。

【 0 0 2 3 】次に、包装機において上記巻き取った連続体を所定の長さに切り離し、開封用ミシン目線 3 を有するガゼット袋 1 の下方開放部から、図 5 に示すように 4 本のロール状キッチンペーパー 4 を充填包装して、下面をシーラー 5 を用いて熱シールし図 2 に示した包装体 1 を得る。開封用ミシン目の大きさ、間隔等については埃や虫が内部に入らず、保存中に破れない強度があれば特に制限はないが、厚さが 2 5 ~ 3 0 μ の PE フィルムを使用したとき、通常各ミシン目の切込部の長さは 0 . 1 ~ 4 mm、切込していない部分の長さを 0 . 1 ~ 1 0 mm とすることが好ましい。また、開封用ミシン目線の左

右両側には、人体に悪影響をおよぼすことのない、虫除け香料や防虫剤などを塗布したり、水の浸入防止のため撥水剤を塗布することもできる。

【 0 0 2 4 】<実施例 2> 図 6 は、2 本若しくは 3 本のロール状キッチンペーパーを充填包装し、包装体に取り手を取り付けない場合に使用するシート状フィルムの展開図である。実施例 1 と同様に印刷箇所 P を網掛け模様で示した。この実施例では 2 本包装の場合、同フィルムの前面中央領域（中央部）に、回転刃を用いて開封用ミシン目線 3 を切り込んだ後、このフィルムで直接ロールを簀巻き状に包装する。その後、ロールの円筒面上でフィルムの両側端縁を重ね合わせてその重合部を加熱シールし、さらにロールの円形の端面側でフィルムを折り込み、ヒートシール等の手段により密封して、図 1 に示したような包装体 1 を得るものである。又、3 本のロール状キッチンペーパーを充填包装した包装体を図 8 (c) に示すが、2 本ロールの場合とは異なって、開封用ミシン目線 3 の位置を、再包装しやすいように、前面中央領域であるが、端の 2 本のロールの中央部に設けている。

また、これらの場合、開封用ミシン目線の配置位置は、包装袋の展開状態で上面と前面と下面に相当する部分において、1 本の直線状に全長約 4 0 0 mm に渡って設けている。ミシン目線が配置されている領域の比率は、上面と前面と下面において、夫々 1 0 0 % である。但し、これらの長さとは比率は一例であり、勿論限定されるものではない。

【 0 0 2 5 】次に、本包装体に表示する開封用ミシン目線の位置を示す印刷表示、前記開封用ミシン目線に沿って開封し、再包装する方法を説明する説明図等の印刷表示について説明する。この実施形態では、図 4、図 6 に示したように、包装体の前面と後面または側面となる任意のフィルム面上に印刷によって商品名などが表示されている。それと同様に、使用者に認識し易い位置に、包装体の開封方法と再包装方法を記述した説明表示若しくは文字と図形など組合わせたイラスト表示を印刷により施されている。図 7 は前記イラスト表示の一例であり、図 8 の (a) と (b) は、包装体に表示する開封用ミシン目線の位置を示す印刷表示がなされた包装体を開封用ミシン目線に沿って開封する方法を説明する説明図、及び前記開封用ミシン目線に沿って開封して一部のキッチンペーパーを取り出した後に再包装する方法を説明する説明図である。このような印刷表示を予め包装体しておくことにより、どのように開封すれば再包装がやり易いのか一目で理解でき、印刷表示された方法に従うだけで、開封や再包装が誰でも容易にできることとなる。

【 0 0 2 6 】

【発明の効果】以上説明してきたように本発明のロール状キッチンペーパーのユニット包装体は、包装用シートと集積したロール群の前後の包装面の少なくとも一方の面上に、ミシン目からなる開封用切込み線が前記ロール

9

の軸線とほぼ平行をなすように設けられているから、ロール状キッチンペーパーを取り出す際に非力な女性または老人でも開封が容易であると共に、予め定められた開封位置を綺麗に開封することができ、かつ開封後、必要個数取り出した後、残りのロール全体を開封後の包装フィルムを用いて、容易にくるみ包装（キャッピング包装）して、清潔に保管できる効果を発揮する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】（a）はロール状ペーパータオルを 2 本収納した包装体の正面を主体とした斜視図であり、（b）は同上底面を主体とした斜視図である。

【図 2】（a）はロール状ペーパータオルを 4 本収納した包装体の正面を主体とした斜視図であり、（b）は同上底面を主体とした斜視図である。

【図 3】図 2 の包装体に使用するガゼット袋の正面図である。

【図 4】ガゼット袋を切り開いて示す展開図である。

【図 5】同上ガゼット袋に 4 本のロール状キッチンタオ *

10

ルを充填包装する状況を示した斜視図である。

【図 6】2 本若しくは 3 本のロール状キッチンペーパーを一行に並べて充填包装する場合に使用するシート状フィルムの展開図である。

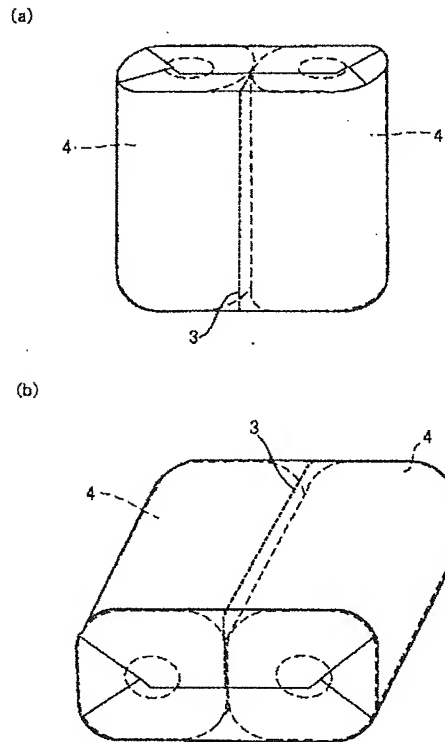
【図 7】包装体に印刷表示される開封操作と再包装操作の一例を示す説明図である。

【図 8】（a）は 2 本入りロールの開封操作及び再包装操作を示す説明図である。（b）は 4 本入りロールの開封操作及び再包装操作を示す説明図である。（c）は 3 本入りロールの開封操作及び再包装操作を示す説明図である。

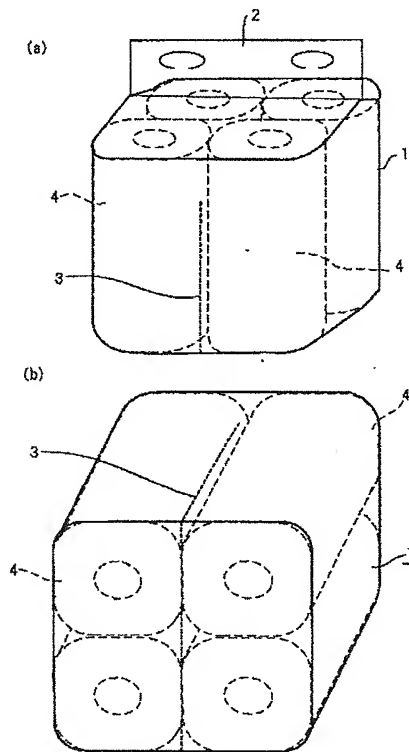
【符号の説明】

- 1 包装体
- 2 取っ手
- 3 開封用ミシン目線
- 4 ロール状キッチンペーパー
- 5 シーラー
- P 印刷部

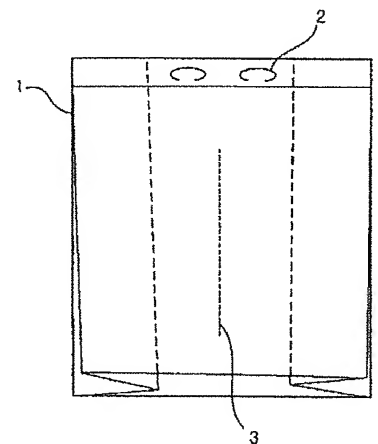
【図 1】



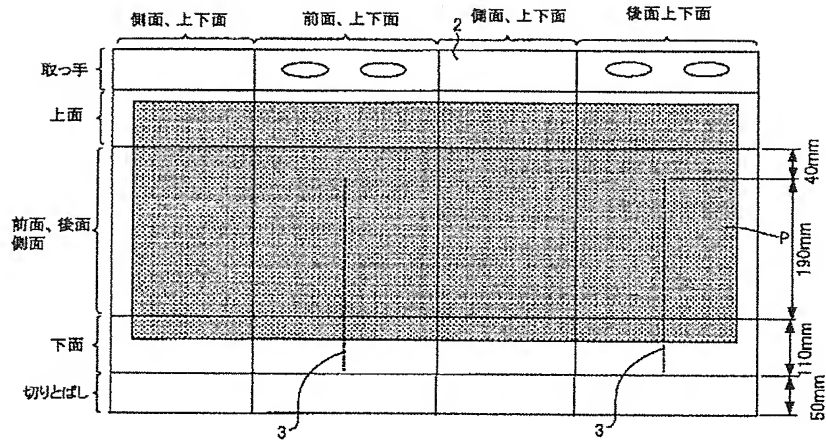
【図 2】



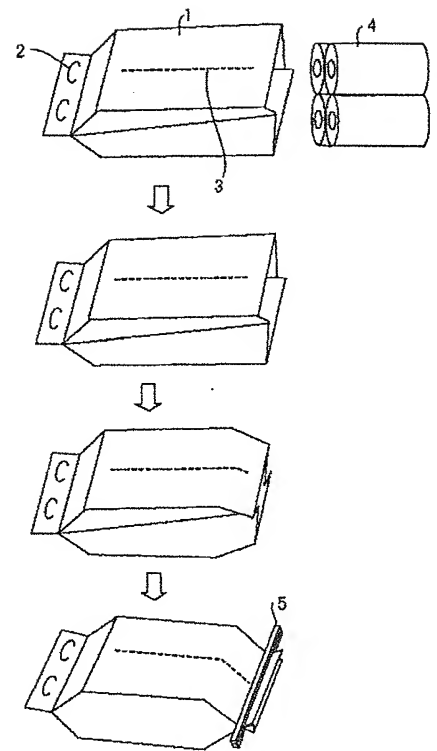
【図 3】



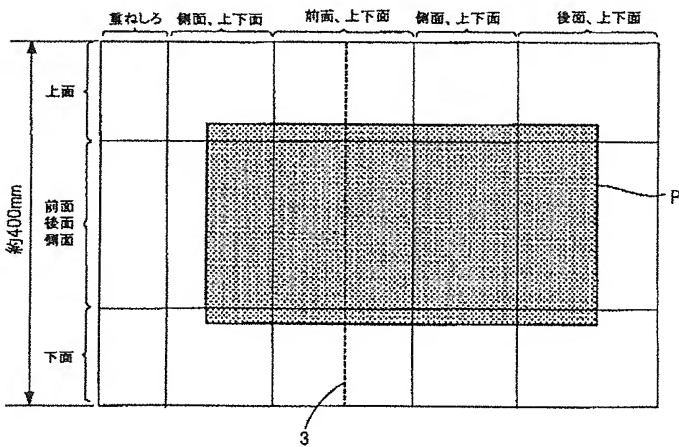
【図4】



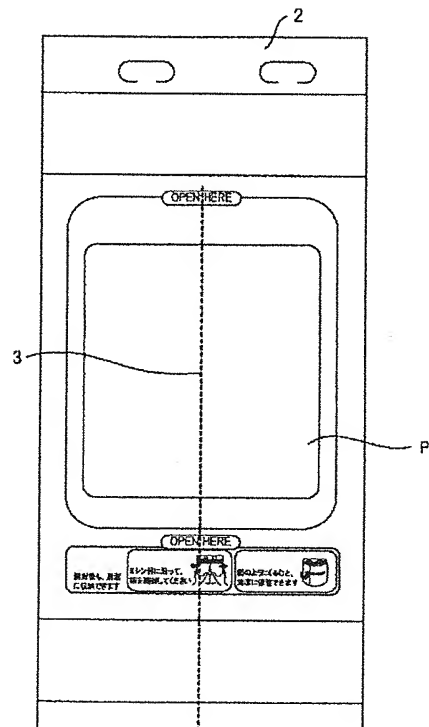
【図5】



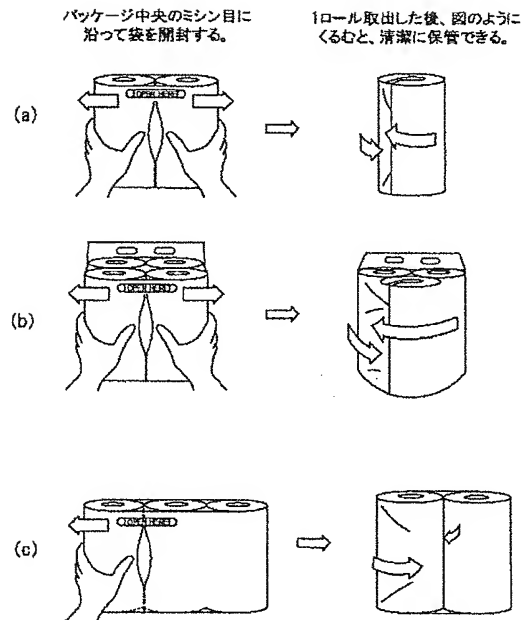
【図6】



【図7】



【図 8】



【手続補正書】

【提出日】平成13年10月9日(2001.10.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正内容】

【0025】次に、本包装体に表示する開封用ミシン目線の位置を示す印刷表示、前記開封用ミシン目線に沿って開封し、再包装する方法を説明する説明図等の印刷表示について説明する。この実施形態では、図4、図6に示したように、包装体の前面と後面または側面となる任意のフィルム面上に印刷によって商品名などが表示されている。それと同様に、使用者に認識し易い位置に、包装体の開封方法と再包装方法を記述した説明表示若しくは文字と図形など組合わせたイラスト表示が印刷により

施されている。図7は前記イラスト表示の一例であり、図8の(a)と(b)は、開封用ミシン目線の位置を示す印刷表示がなされた包装体を開封用ミシン目線に沿って開封する方法を説明する説明図、及び前記開封用ミシン目線に沿って開封して一部のキッチンペーパーを取り出した後に再包装する方法を説明する説明図である。このような印刷表示を予め包装体しておくことにより、どのように開封すれば再包装がやり易いのか一目で理解でき、印刷表示された方法に従うだけで、開封や再包装が誰でも容易にできることとなる。

【手続補正2】

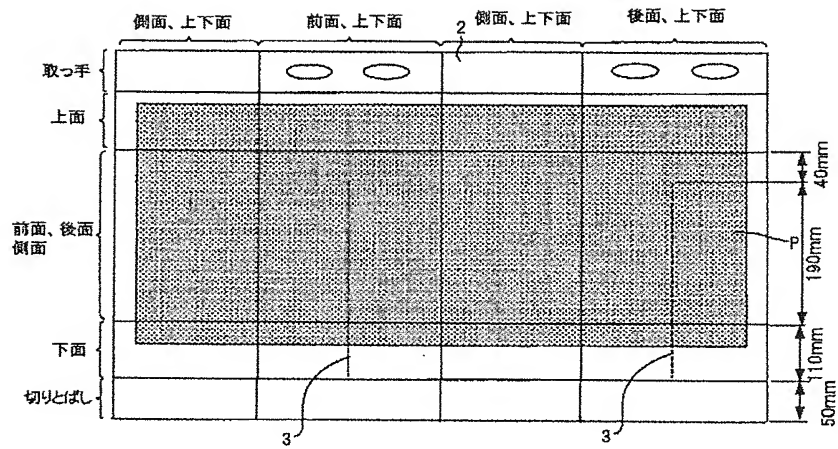
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図4

【補正方法】変更

【補正内容】

【図4】



【手続補正 3】

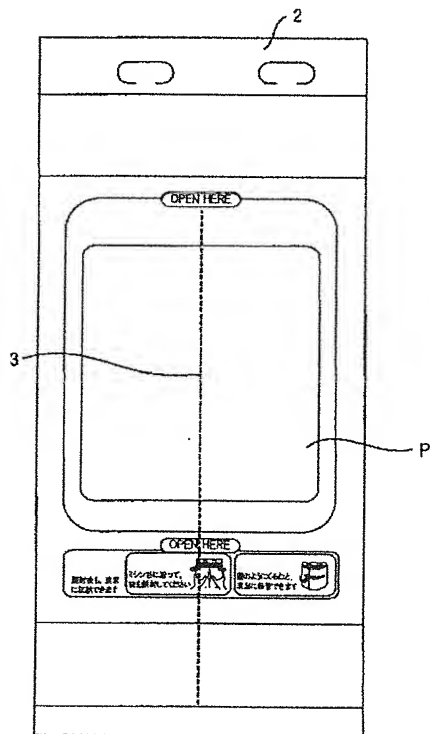
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 7

【補正方法】変更

【補正内容】

【図 7】



フロントページの続き

(72) 発明者 土田 裕三

徳島県阿南町辰巳町 1 番 2 号
式会社徳島工場内

(72) 発明者 田中 寿

王子製紙株

東京都中央区銀座五丁目 12 番 8 号
紙株式会社内

Fターム(参考) 3E037 AA03 BB08 BB12 BC01
3E067 AA16 AB75 AC03 AC11 AC12
BA12A BB14A BC06A EA06
EB03 EB17 EB22 EE02 EE15
EE59 FA01 FC01
3E086 AB01 AC12 AD01 BA02 BA15
BA43 CA35